

第37回 寿地区文化祭 寿地区・福祉の文化祭 「この街に生きて」

館報編集委員会主催「松本山雅FC応援講座」も開催



本年は当館報委員会による文化祭協賛事業として7日金曜日に「松本山雅FC応援講座」を開催しました。

寿地区文化祭が11月8・9日に寿公民館においてことぶきの「わ」をテーマに開催されました。

8日は、本年度3回目を迎える「寿地区・福祉の文化祭」が寿地区の福祉施設5団体と寿小学校の児童、寿地区福祉

前週にJ1昇格を決めたばかりだったことや、ユーモア溢れる語り口から会場が大いに盛り上がりました。山雅がまちな人々に愛されているなど実感した講座となりました。

松本山雅のホームタウン担当の内田佑介さんから松本山雅のこれまでの軌跡と理念である地域貢献の様々な活動について講演いただき、同じく片山真人さんからは選手目線からの山雅チームのお話で、

これはJリーグで活躍中の松本山雅FCを応援したい方向けの初心者講座として開催したもので、当日は熱心な山雅のサポーターさんも加わり、50名余の参加者がありました。



世帯数 5,888戸
人口 14,584人
(平成26.11.1現在)

るばを中心とした住民が参加し開催されました。この福祉の文化祭は、寿地区の福祉に関わる人々と住民が一堂に会して交流を深め、寿地区がさらに「誰もが暮らしやすい街」を目的にしています。発表の場である体育館は昨年からステージを中心に周りを参加者が囲む形式にして全員が参加しやすくしたことにより、参加者に一体感が生まれた発表会となりました。



9日はステージ発表と、地区の皆さんの心を込めた作品の展示が行われ、公民館の外ではかかし祭りや寿屋台村が開かれ大いに賑わいました。寿地区文化祭は福祉活動を含め地区で活動する皆さんの交流の場として大きな役割を担っていると感じました。

館報編集委員 小林 一博

市長杯争奪球技大会 寿地区女子バレー

5連覇達成!



11月2日の大会において22年度から5年連続優勝の快挙を達成しました。寿地区球技大会で優勝した小池チームをベースに選抜チームを編成し、前監督の平林さん、現監督の花村さんを中心として、大会当日まで練習に励んできました。ほとんどのメンバーが、毎週行うチームでの練習

「選抜チームを組んで7年目になります、体協さんのお力添えや、家族の協力もあり、5年連続優勝を達成することができました。ありがとうございます」

白石さん



「選抜チームに呼んでいただき、優勝を分かち合えたことがとても嬉しかったです！力強い仲間たちのフォローがあり、せいりっぱいプレーできました。この出合いを大切にまた楽しいバレーをしたいです！☆感謝！優勝ばんざーい☆」

寿地区 住民運動会 開催

2年ぶりに運動会が開催されました。結果は次のとおりです。

1位	百瀬	瀬川
2位	小池	田川
3位	赤木	川
4位	寿田	黒川
5位	白上	瀬町
6位	豊	原町
7位	竹	姫
8位	竹	田
9位	白	町
10位	寿	町
11位	竹	町
12位	下	瀬

わがまちこの人

水墨画を始めて26年



百瀬町会 小林 嘉親 さん

好きで始めた水墨画は、平成元年10月に寿公民館の水墨画講座がありこれが続けることになり今日に至っております。

趣味とはいっても、水墨画は水と墨の調和で山水花鳥を表現するので奥が深く、いまだに自分の絵が描けません。描いている時が楽しく、でき上がった作品を見て自己満足して喜んでいきます。

当初は定年前で会社に農薬と区画整理事業で多忙でしたが、合間を見てスケッチや写真を撮りに行き、作品を描く日々でした。26年間には大勢の仲間もでき、休むこともなく習画日に参加し、健康とボケ防止になっています。

考えてみると子供のころから絵は好きで、小学校のころは戦闘機や軍艦の絵、中学では風景や人物を、青年会で演劇の舞台絵を、また「アカシ

ヤ」でイラストや挿し絵も、独学で色々な絵を描いていました。結婚して家内に「似顔絵や美人画でなくきちんとしてた絵を描いたら」と言われ、水墨画を指導してくれる先生を見つけたが当時はおりませんでした。昭和45年にやっと水墨画教室を見つけてすぐに入会し、基本から教えてもらいましたが、仕事の関係で25、26回の習画で終わってしまった。残念でなりません。その後、仕事が多忙で10数年は筆を持つことはありませんでした。

公民館は10年間寿水墨画会

を取りまとめてきましたが、講師が退任することになり解散しました。その後、公民館水墨画講師、県シニア大学講師と4教室で多忙ですが、自分の好きなことを毎日できる幸せを感じております。これからも元気でふんばり絵を描いていきたいと思えます。



竹漕も文化祭

去る10月26日(日) 24回竹

漕町会文化祭が行われ、300点を超える応募作品が、3つの会場にところ狭しと展示されました。小・中学生コーナーでは学校で作ったものや絵、習字の他、趣味を生かした手工芸作品等が、そのほかの会場では編み物、折り紙、袋物、刺繍、わら細工、人形、押し絵等々のほか、農産物が竹漕の文化として加わり訪れた人の目を引きました。今年の手芸コーナーでは木製の手作りパズルに人気が集まり、子供から高齢者まで釘づけで知恵を絞る光景が印象的でした。



そのほか、クラブ・同好会の活動紹介が写真入りで展示され、消防団からの防具等の展示紹介も工夫されています。

恒例のステージ発表は、竹漕祭りばやし、の威勢の良いオープニングセレモニーで幕が開き、大正琴や日本舞踊民踊、コーラスのほか、今年新たに加わったヴァイオリンの演奏は約80人の会場の皆さんをうっとりさせてくれました。一方、少し腹の出方が気になる男性3人組によるモノマネ歌謡ショーは会場を大いに沸かせました。約200人を迎えた展示会場もステージ発表会場も久しぶりに顔を合わせた皆さんが会話に花を咲かせ、笑顔が絶えることがなかった光景は、公民館は町会員の「お茶の間」的存在であることを改めて痛感できた一日でもありました。

竹漕公民館長 高田 啓行



宝くじ助成金の活用で 公民館の備品を整備



配備された机・イス・台車

白川町会では、増え続ける高齢者の町会行事への参加率を向上させ、地域住民の絆を深め健康寿命の延伸と、地域の活性化を目的に、公益財団法人長野県市町村振興協会の「平成26年度一般コミュニティ助成事業」を活用して、140万円の助成を受け、公民館の机・イス等の整備を行いました。

早速、9月23日に行われた「敬老会」でお披露目を兼ねて使っていたとき、参加者から「従来の座卓に比べて足腰が楽」などの感想をいただきました。

*** 配備された備品 ***

机 (大25台・小1台)

イス (100脚)

台車 (5台)

館報編集委員 百瀬 肇